

# 花見の名所 堀川

文化年間(1804~18)に、御普請奉行の堀彌九郎が日置橋の南北に桃と桜の苗木を植えた。数年経つとみごとな花を咲かせ、堀川を淡い紅色で染めるようになった。多くの人々が訪れ、茶屋や料理屋・花見舟が出るようになり、名古屋一の花見の名所となったのである。京都から来た人が「かほどの長き並木の桜は都にも稀なり。東国にての珍らしき花見なり」と語ったと伝えられている。

さらに安政7年(1860)になると、堀川の長畝(現:朝日橋~景雲橋の東岸)にも植えられた。



納屋橋から下流を望む 『桜見与春之日置』(名古屋市博物館蔵)



今の若宮大通付近からの風景 『桜見与春之日置』(名古屋市博物館蔵)



日置橋東南からの風景 『尾張年中行事絵抄』(東洋文庫蔵)



日置橋の西北風景 『桜見与春之日置』(名古屋市博物館蔵)



日置橋の賑わい 『尾張名所図会』

草	萩	蒲	葛	桃	牡丹	藤	躑躅	櫻	梅	季
平	寸	隅	中	墨	小	桃	枇	牡丹	野	香
針	樂	ヶ	根	水	笠	山	杷	丹	雪	雪
		池	庵	原	原	島	島	亭	軒	軒
邊	雪	虫	月	蟻	瀧	松	繻	菊	季	季
大	七	住	澤	夜	松	丹	二	廣	宮	洲
須	島	吉	觀	寒	風	見	村	見	見	見
伊	町	社	音	里	里	坂	山	山	山	山
香	徳	保								
保	徳	保								

明治28年発行の『名古屋明細全図』には、桜の名所として堀川

## 水主町変電所は、元お殿様の花見屋敷跡

家督を譲り隠居していた10代藩主の齊朝も桜を見たがった。<sup>なりとも</sup>このため、中部電力水主町変電所の場所は当時藩士の屋敷であったが、弘化年間(1844~48)に上地をさせ、改修して日置御屋敷にした。門長屋に透き見の窓を作り、花を眺められるようにしつらえてあったという。